

平成 21 年度厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
「重症新生児に対する療養・療育環境の拡充に関する総合研究」

分担研究報告書

「長期 NICU 入院児の在宅医療移行における問題点とその解決」

分担研究者 前田浩利 あおぞら診療所新松戸

研究要旨

本研究の目的は、重症児の在宅療養を可能とする要因及び実現可能なシステムについて明らかにすることである。NICU 卒業児の受け入れ先として、子どもの人権及び QOL の点からも、又、医療経済的な面からも在宅療養は非常に有効な選択肢である。しかし、現状では、そのような重症児の在宅医療を行っている医療機関は極めて少ない。その要因を明らかにし、長期 NICU 入院児の在宅移行を実現するために本研究を実施したい。

A.研究目的

現在の我が国の社会、医療の状況にマッチした重症児の在宅療養を可能とする要因及び実現可能なシステムについて明らかにする。

B.研究方法

研究方法としては、全国の在宅療養の支援を行っている医療機関へ対象を絞り、アンケートを実施すること。NICU との密接な連携のための定期的 NICU 医師との合同カンファレンスの組織化を行うこと。在宅医療を受けている小児患者の家族へのアンケートを実施し、患者及び家族の側から在宅医療移行時の問題点を明らかにすることなどである。また、訪問看護ステーションに関しても、既存の調査から引用し、実態を把握したい。

【我が国の在宅療養支援診療所へのアンケート調査】

- 全国の 11928 件の在宅療養支援診療所へ送付
- 質問事項（以下の項目に対して選択式で質問）
 - ・ Q1：小児（0 歳～19 歳）の患者について訪問診療の相談又は依頼を受けたことがありますか？

- ・ Q2：小児（0 歳～19 歳）の患者を在宅で診療したことがありますか。
- ・ Q.3：小児科領域の患者を今後在宅にて診療しようと思われませんか。
- ・ Q.4：小児科領域の患者を在宅で診療することについて感じておられる難しさを教えてください。
- ・ Q.5：小児科領域の患者を診療するにあたりこれならば診療できると思うものを 1 つお答えください。

C.結果

【我が国の在宅療養支援診療所へのアンケート調査】

- 全国の 11928 件の在宅療養支援診療所へ送付
- 1478 件の回答あり・・現在回答を分析中
- 【我が国の訪問看護ステーションの実態に関して】
- 平成 19 年度厚生労働省障害者保健福祉推進事業 からの引用
- 全国 3616 事業所へのアンケートを行い 1299 件の回収
- 過去 1 年間で重症児への訪問看護を実施した

経験あり・・・36.9%

現在整理中のアンケートの結果では、全国の在宅療養支援診療所で小児の在宅医療を積極的に行っている医療機関は 20 施設以内と思われる。その中でも 10 人以上の小児患者に在宅医療をおこなっている医療機関は 10 箇所程度と思われる。

また、2008 年 12 月から開始した千葉県内船橋市の NICU 部長、看護師長との合同カンファレンスを継続することによって、当該 NICU は長期入院患者が激減し、ベッド稼働率が向上した。現在、これをデータとして集計中である。

D. 考察

小児患者に在宅医療を行う困難さの要因として、医療依存度の高さ、小児患者の発生頻度の少なさによって、症例の蓄積が起らないことなどがある。また、小児の訪問看護や訪問診療を行う医療機関が徐々に増えているとはいえ、まだまだ圧倒的に少ないことは大きな問題である。特に、一般の開業小児科医が、在宅医療をほとんど行っていない現状は非常に大きな問題である。それは、外来診療を行う合間に在宅医療を行うことの困難さや、在宅診療に対する知識の不足が原因になっている。しかし、それを補い、多くの開業小児科医に在宅医療を実践してもらうためには、訪問看護師との連携が欠かせない。外来や夜間、休日の対応など訪問看護師との連携は、小児在宅医療の敷居を下げ、多くの小児科医を巻き込む戦略の要と言える。

更に、退院させる側の NICU にも退院、在宅導入を阻害する因子が存在する。NICU の医師が在宅医療への理解を深め、心理的な退院の阻害要因を排除し、地域の開業医との積極的な連携を行うなら、更に在宅導入は進むと思われる。

E. 結論

長期療養児の NICU からの退院を促すためには、送り出す側の NICU 医師、看護師の在宅医療への理解の深まりと、退院児の受け皿としての小児科一般開業医の在宅医療参入が必要である。その為には、一般開業医と連携する訪問看護師の育成が鍵となる。

F. 研究発表

1. 研究者氏名 . 題名 . 発表誌 . 発表年 (西暦) ; 巻 . : . 頁-頁 .

前田浩利 「開業医が進める小児在宅医療—その意義と実践—」 外来小児科 2009
Vol.12 No.2 P167-185

前田浩利 「長期入院事例 在宅療養支援診療所の立場から」 周産期医学 2009
Vol.39 No.9 P1241-1243

前田浩利 「小児在宅医療の実際—その実践のために」 在宅医療テキスト 2009
P144-147

前田浩利 「小児の在宅緩和医療」
在宅医療テキスト 2009 P150-151

【学会発表】

2009 年 2 月 28 日 第 11 回日本在宅医学会シンポジウム「小児在宅医療」

2009 年 5 月 28 日 第 51 回日本小児神経学会シンポジウム「重症心身障害児の在宅医療」にて発表

別紙4

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
前田浩利	小児在宅医療の実際 ーその実践のために	在宅医療テキスト編集委員会	在宅医療テキスト	財団法人 在宅医療 助成勇美 記念財団	東京	2009	144～147
前田浩利	小児の在宅緩和医療	在宅医療テキスト編集委員会	在宅医療テキスト	財団法人 在宅医療 助成勇美 記念財団	東京	2009	150～151

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
前田浩利	開業医が進める小児在宅医療 ーその意義と実践ー	外来小児科	Vol. 12 No. 2	167～185	2009
前田浩利	長期入院事例 在宅療養支援診療所の立場から	周産期医学	Vol. 39 No. 9	1241～1243	2009